

(学校運営協議会・報告様式)

令和3年度 第6回 鈴西小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和4年2月8日(火) 10:00～11:00

2 場 所 多目的ホール

3 あいさつ(委員長, 学校長)

(1) 委員長より

新型コロナについて, だれがなってもおかしくない。発症しないのが特徴。健康に留意し, できる範囲で予防を。

(2) 学校長より

新型コロナについて, 校内でも緊張感を持って対応している。

授業等で通常を維持していくため, 児童に登下校時もマスク着用, 手洗い等, 基本的な感染症対策の徹底を指導。また, グループ学習の一時停止や合唱, リコーダーの授業や調理実習の自粛等, 授業内容も密にならない工夫をして行っている。

卒業式や6年生を送る会は, 感染状況を見て実施方法を探りながら工夫して可能な限り実施していきたい。

4 協議内容

(1) 学校関係者評価書について

ア 協議内容 (○: 委員の発言 ▲: 回答等)

▲	はじめに『「知」と「徳」と「体」のバランスの取れた育成』の項目について, 協議をお願いします。
○	あゆみ渡しの時に, パソコンでデータやグラフを見せてもらいながら個人懇談をしてもらった。小学校のあゆみでは, 子どもの学力が分かりにくく, 中学校に行って「できてなかった」ということが分かる。今回のようにテストの点数を数値やグラフで見ることができ, 子どもの学力が分かってよかった。
○	「全国学力調査」が始まってしばらくたった。知識・理解を問うことだけでなく, 「今求められている学力は何なのか?」, 「子どもたちに本当につけたい力は何か?」に視点を当て, 将来を見通した学力を考えていく時期ではないか? 朝の読書の時間減の分をどこでカバーするのか考えてほしい。 図書巡回指導員の方がお見えになり図書室が充実しよかった。 ボランティアの活動がコロナ禍で縮小しているにも関わらず延べ人数180人活動してもらえたのはよかった。

▲	次に、『生徒指導子ども理解安全確保』の評価項目について、協議をお願いします。
○	あいさつ運動を月1回、正門で行っているが、こちらから声をかけないとあいさつできない子がいる。中学生は自分からあいさつできる。小学校でも誰に会ってもあいさつができるように指導をお願いします。
○	あいさつ運動やながら見守りで、下校時に児童と毎日すれ違う。毎日会うと子どもも分かってくるのであいさつをきちんとするようになる。大きな子が元気にあいさつすると小さい子も真似をしてあいさつできる。小さい子も自分が大きくなったら手本となってあいさつできるようになってくる。 いじめについては、表に出てこない。なくならないと思っている。だから、小さなうちに発見して、大きくならないうちに芽を摘んでほしい。いじめる側は、はじめは小さいはずらからだんだんエスカレートして大きいいじめにつながり歯止めがきかなくなっていくと思うので小さなうちに発見して指導してほしい。
○	いじめの基準はあるのか？
▲	された方がいじめと感じたらいじめとして扱い対応していく。 訴えがあれば小さなうちから把握し、双方に聞き取りをして対応していく。
○	無視もいじめになるのか？
▲	いじめになる。ただ、同じことをされても人によって感じ方が違う。受けた側の感じ方でいじめと感じたらいじめとなる。した方はいじめとっていない場合もある。 小さなことでもお互いの話を丁寧に聞きとり、くり返し指導をしていく。
○	お互いの親密度でも違うと思う。それは子どもでもあるのか？
▲	あります。受け取り方が違う。
○	いじめアンケートに書いて先生に聞いてもらうことでスッキリする子もいる。アンケートに書ける子はいいけど書けない子もいるので配慮してほしい。 保護者の想いを聞き取り、支援計画を一緒に作り、子どもの支援に活かしていくことはいいこと。今後も続けてほしい。
○	中学校に進学するとまじめな子が不登校になるケースがあると聞く。 小学校では人数が少ない環境で学校生活を送っていたが、中学校では、他の小学校の子たちと一緒にになり、人数も多くなる。そのような環境で学校生活を送ることとなりなじめない子が出てくる。 野球やサッカーで他の小学校の子と交流のある子はすんなり中学校生活にもなじんでいた。交流の機会のないまじめな

	子が不登校になっている。他の小学校と交流する機会がある といいのではないかな？
▲	<p>鈴峰中校区の庄内小、椿小、深伊沢小は単学級交流として自然教室を合同で行っている。鈴西小も単学級だが、1クラスの人数が多いことから来年度は単独で行う予定。</p> <p>今年度は、中学校で人権コンサートを見に行く中で、他の校区小学校の児童とも交流があった。</p> <p>中学校の方でも、不登校になっていることを気にかけている。また、医療にかかる子もいると聞く。</p> <p>校区校長会でも話題にあげ、機会を作ればと考えている。</p>
○	<p>子どもを一番に考える。</p> <p>コロナがない時は学校に地域のいろいろな人がボランティアで入ることができた。コロナのためそのような機会がなくなってしまい、子どもを見る目が少なくなった。また、見る目が限定され地域の目、ボランティアも少なくなった。家庭のミシンや調理実習、森のまつりのボランティアも止まっている。家庭の実習などでは、先生1人とボランティア2～3人程度なら感染症対策を十分取って授業に入ってもいいのではないかな？</p>
▲	<p>コロナが落ち着いたらお願いしたい。</p> <p>屋内では、密になったり距離が近い控ええている。</p> <p>運動場など屋外で行うことについては、実施していただけることを考え工夫して行いたい。</p> <p>ただ、小学生はまだワクチンを接種していないため、外部のボランティアを呼ぶにしても、お互いに何かあってからでは遅いので、判断が難しい。</p>
▲	次に『地域と共にある学校づくりの推進』の項目について協議をお願いしたい。
○	<p>学年通信に子どもの学校での様子が掲載されていた。</p> <p>2年生の時の担任の先生は、子どもの様子を掲載してもらっていて楽しく読んでいたが、その後は行事予定等の連絡のみだった。学校に来る機会が減った中で、子どもの様子が分かっていいと思う。</p>
▲	<p>学校評価のための保護者アンケートで指摘があったこともあり、これまでの学級通信は表面に連絡事項が載っていただけだったので、裏面も活用して子どもの様子を載せるよう指示をした、これからも続けていきたい。</p>
○	「3 地域・外部人材の活用」で、植木組合の方々をゲストティーチャーに呼んで自分たちの地域の産業の植木について探求学習を行うことはとてもいい取組と思う。もっと発展させていってほしい。
▲	<p>1, 2学期は剪定や苗づくりの体験学習を行った。3学期はコロナ第6波に入りつつあったため、植木組合の方と ZOOM を使ったオンラインでの学習となった。また、最近までたてわ</p>

	り班でのグループ学習を行っていたが、感染状況を見てストップさせた。その代わりにネットワークを活用してグループのメンバ同士でチャット機能を使って企画書の作成に挑んでいる。
○	健康が第一。何か方策があれば協力していく
▲	コロナ禍の中で日々手探りの状態である可能性があることを実施していく。近々、児童集会を企画していたが、この状況のため担当者は中止する方向で考えていたが、児童会の子どもの活躍の場ができるよう、オンラインでの動画配信で集会を行うこととした。
○	津市では、登校を自粛している子どもにオンラインで授業の配信をしていると聞いている。鈴鹿市はどうか？
▲	鈴鹿市でもできないことはない。通信料は各家庭持ちにはなるが、申し出があれば実施は可能。ただし、授業の配信は流しっぱなしの状態になる。また、体育館や特別教室の授業は実施方法の検討が必要。
○	インフルエンザでも出席停止で5日間ほど自宅での待機となる。オンラインの授業をのぞくだけでも、家でゲームしているよりいいのではないかと？
▲	保護者からの申し出があれば、子どもも慣れているので、対応は可能です。
▲	次に『教職員の働き方改革』の項目について協議をお願いしたい。
○	指導要録も電子化されているのか？
▲	公簿は、紙。 指導要録のデータは、あゆみや出席のデータが反映されるようにシステム化されているので業務の効率化につながっている。

- (2) 令和4年度見込み児童数（2月8日現在）について
令和4年度の児童数見込について校長より説明

4 情報交換・その他

- (1) 令和4年度の土曜授業について
令和4年度土曜授業の持ち方について、校長より説明
- (2) 来年度の委員について
- (3) 会計監査（3月28日(月)）のお願い
- (4) 来年度の学校運営協議会について
年6回開催すること、日程については、今のところ予定であることを伝える。
また、中学校区の合同運営協議会の日程は未定であり、決まり次第連絡することを伝える。

5 教育委員会 杉谷先生より

今日の運営協議会は、学校関係者評価がメインだった。

今日の評価が次年度の学校運営の基本方針に反映されていく。

今日の話で、次年度に引き継ぐことは以下の3点。

① 子どもにどんな力を付けたらいいのか？

社会に開かれた教育課程を編成する中で、地域の方も一緒になって話し合っていく。鈴峰中校区では小中9年間の義務教育期間の中で目指す子ども像（スローガン）がある。各小中学校では、そのスローガンをもとに各校の実情に合わせて教育活動を行っていく（具体化していく）。

鈴西小の運営協議会でも話し合っていく。

② 地域学習では、地域のことを学ぶことで子どもに地域に愛着を持たせ、誇りを持たせる。将来的にはこの地域を支える子どもである。学校、担任任せではなく学校運営協議会で地域のことについて何を教えていくのか等を検討し、教育課程に位置付ける。

③ ボランティアについて

コロナ禍の2年間で活動が縮小している。十分感染症対策を取ってやれることはやるのが大事。また、収まったときにどう復活させるのかを課題として次年度、熟議していく必要があるのではないか。